



①飲食スペース ②音楽物語『阿梅物語』 ③クリーン元鬼ウォーク ④スポーツ鬼ごっこ

市民手づくりのまつりで 市制施行40周年をお祝い

第一回のぼりべつ元鬼まつり

7月31日(土)・8月1日(日)の2日間、市民会館をメイン会場に『第1回のぼりべつ元鬼まつり』(同実行委員会主催)が行われました。

この催しは、市制施行40周年の節目をきっかけに、市内でまちづくり活動をしている団体や市民が連携し、地域に貢献する市民活動を紹介するとともに市民活動への理解や参加を呼び掛けることを目的に開催されたもので、これからも毎年行われる予定です。

まつりは、陸上自衛隊第7師団第7音楽隊の演奏と西尾拓也実行委員長の開会宣言で開幕。駐車場などの屋外では、太鼓演奏やフラダンスショー、仮装盆踊り大会、スポーツ鬼ごっこ、ごみを拾いながらまちを歩くクリーン元鬼ウォークなどが行われたほか、各市民団体の出店や飲食スペースが設けられました。

また、大ホールでは、大正琴や日本舞踊などの発表のほか、姉妹都市の白石市文化協会による、戦国武将・真田幸村の娘で、敵将・片倉小十郎重長に託された阿梅の生涯を音楽と語りで伝える音楽劇『阿梅物語』が上演され、多くの市民が真剣な表情

で劇に見入っていました。

市民熱演の劇で40周年を振り返る
市制施行40周年記念セレモニー

【表紙写真参照】

8月1日(日)には『市制施行40周年記念セレモニー』が行われました。

このセレモニーは、まちの歩みを振り返りながら、先人のまちへの思いを将来に引き継いでいこうと呼び掛ける創作劇で、小笠原市長や姉妹都市・白石市の風間康静市長のほか、市内で活動するまちづくり団体、北海道登別明日中等教育学校の生徒など約90人が出演しました。

劇では、鶯別、幌別、登別、登別温泉各地区の代表が、『水』や『鬼のパワー』など各地区の力を持ち寄ると、市民のふるさと登別への思いが詰まった『元鬼札』が誕生。そのほか、10年前の市制施行30周年を記念して埋めたタイムカプセル『鬼のたまご』の開封や、市内幼稚園の児童による合唱などが行われました。

最後に、小笠原市長が『鬼のたまご』から生まれた『鬼の子』を抱き上げ、劇が終幕を迎えると、会場に集まった市民は、まちのさらなる発展への決意を新たにっていました。

7/31
8/1